日本農業新聞　平成 29 年 10 月 24 日掲載

農業技術プリズム

## 二条大麦「はるか二条」

# 適切な施肥体系検討 収量と品質アップへ

県産の二条大麦は、主に食用、焼酎醸造用として利用されています。2013年からは需要量の確保と生産者の収益性向上を目指して、多収の「はるか二条」を奨励品種に採用し、普及を図っています。今回、「はるか二条」の収量と品質を向上させるための施肥量について検討しました。

元肥は、10アール当たり窒素施用量を5キロから7キロに増やしても子実重、容積重、千粒重、検査等級に差はないため、5キロが良いことが分かりました。分けつ肥および穂肥は、10アール当たり窒素施用量を2キロから4キロにすると子実重が重くなりますが、4キロから6キロにしても差はなく、4キロが良いことが分かりました＝図。

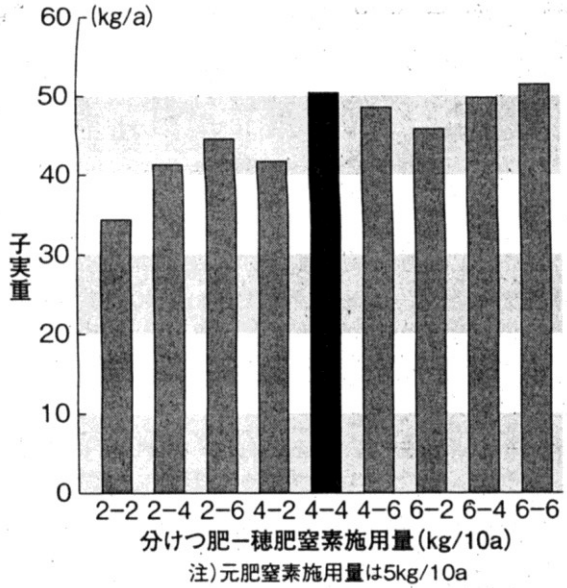
なお、今回の施肥量の範囲では、検査等級は全水準において1等となりました。

以上のことから、二条大麦「はるか二条」の施肥体系は、10アール当たり窒素施用量で元肥5キロ、分けつ肥4キロ、穂肥4キロが良いと考えられます。なお、栽培上の留意点として、施肥の際は各圃場（ほじょう）の地力、土壌条件に応じた施肥を行うことが重要です。

今回の成果により「はるか二条」の収量と品質が向上し、県産麦の生産拡大が図られることが考えられます。

（県農林技術開発センター　作物研究室　段口貴大）

分けつ肥ー穂肥窒素施用量の違いと子実重




注）元肥窒素施用量は5kg/10a